

CONTENTS

- 平成25年度 三郷トップセミナーを開催
- Dr.テラの初めての経営品質 -第2回-
- 平成25年度 ベンチマーク視察研修会・会員交流会開催
- SQA 通信

平成25年度 三郷トップセミナー を開催

共催：彩の国工場振興協議会



7月30日(火)三郷市文化会館でトップセミナー(共催:彩の国工場振興協議会、後援:三郷市商工会)を開催しました。講師に元ホンダベルノ店社長の大河滋氏を迎え『ホンダ流人づくりの真髄 ~逞しく創造性ある社員を育てる~』というテーマでお話いただきました。また、地元三郷市の松井産業㈱代表取締役社長松井宏之氏が事例発表を行いました。

大河氏は「ホンダは社員に「自立・平等・信頼」を求めます。前向きなことについては失敗しても許すが、後ろ向きな事については厳しさを出す」などお話ししました。(詳しくは次ページ)

松井氏は「震災や世界経済の動きなどの変化に企業は速やかに対応していかなければならない。変化に対応し、生き残っていくために経営品質向上に取り組んでいる」と述べ、会社の強み・弱み、市場や社会の状況、経営方針、現在の取り組み状況などについて発表しました。

講演：「ホンダ流 人づくりの真髓

～逞しく創造性ある社員を育てる～

講師：元ホンダベルノ店 代表取締役 大河 滋



元ホンダベルノ店社長 大河 滋 氏

「それはトヨタだから出来た」「それはホンダだからできた」という声を聞きます。そうではなく、それをやってきたから今のトヨタやホンダがあります。ホンダは12人でスタートしました。10年後にはオートバイで世界一になりました。トヨタも昭和27年頃は倒産寸前でした。つらい、苦しい時を乗り越えて今があります。

会津小鉄の組員は命がけで仕事をします。「何故か？」と尋ねたところ、「組長が命がけで組員を守るからだ」という答えが返って来ました。会社も同じです。命がけで社員とともにやれば、経営者であろうが管理職であろうが若い人から返って来ます。中途半端にやっている会社は良くなりません。

良い会社とはどんな会社でしょうか？まず、夢があります。夢のないところに活性化などありません。会社の中でどのくらい話していますか？言いたいことが言えますか？ホンダは言いたいことが言えます。ただし、人の悪口は禁止です。本当に言いたいことを言う時、管理職は席を外します。ホンダでは、会議の始まりの時間だけでなく終わりの時間も決まっています。それをきちんと守ります。会議は1時間と決めています。それ以上は無駄だとホンダでは考えています。

私は「夢」が社員の心をつなぐ強力な接着剤であると考えています。夢は人を動機づけます。ホンダには「万物流転」、命あるものは死ぬ、形あるものは崩れる、という考え方があります。企業が未来永劫発展していくためには、人以外ありません。だから、人を最も大事にします。しかし、自立できない人は要りません。ホンダに合わない人には「他の会社に行った方が良いのではないか」と言います。「人間尊重」と言いますが、何でもかんでも大事にすることではありません。社員に「自立・平等・信頼」を求めます。

ホンダ流格言があります。ホンダでは失敗しても怒られません。ただし、凡ミスや同じ失敗の繰り返しはこっぴどく怒られます。怒られない失敗は2つしかありません。お客様のために一生懸命やって失敗した場合と、仕事の改善のために一生懸命やったが失敗した時です。5日を過ぎたアヤメや9日を過ぎた菊は価値がありません。「タイミングを逃すな」ということです。決まる前に何も言わないで決まった後に批判するのもホンダではNGです。

1973年10月本田宗一郎と藤澤武夫が引退しました。ミニ本田宗一郎・藤澤武夫をつくるためニューホンダプランをスタートさせました。本田宗一郎は「自分のために一生懸命働けば必ず会社のためになる」と言っていました。理論は正しくても実践が伴わなければ人は着いて来ません。ものを売るためには、人と人との信頼関係をつくらなければなりません。やること自体は難しくはありません。しかし、継続するということが大切です。

「やろう」と言う人は出来ることを探します。やる気のない人は出来ないことを探します。ものごとを進めて行く上で、最初の段階であきらめてしまえば、もうそこでおしまいです。

ホンダ流格言

- ① 石橋なら叩かず渡れ
- ② 能ある鷹は爪を出せ
- ③ 成功は99%の失敗に支えられた1%である
- ④ 6日のアヤメ、10日の菊
- ⑤ 決まる前の意見は自由、決まったら従え
- ⑥ 休憩時間とアフター5は平等
- ⑦ 机の引き出しは私物入れ
- ⑧ 計画通りなら報告不要
- ⑨ 会社の最大の財産は「お客様」

平成25年度 ベンチマーク視察研修会・会員交流会 を開催 「ガリガリ君の赤城乳業の視察に学ぶ」

平成25年9月25日（水）、本庄市にある赤城乳業株式会社 本庄千本さくら『5S』工場に伺い、ベンチマーク視察研修会を開催しました。当日は会員企業様より26名が集まり、赤城乳業様から5Sを中心とした主要な活動について説明を頂き多くの気づきを得るとともに、最新鋭の設備と食の安全を追求したアイスクリーム生産ラインを見学しました。



■本庄千本さくら『5S』工場の概要

- ・2010年2月13日に竣工
- ・日本のアイス生産量の約10%を製造できる能力をもつ、日本最大規模のアイス工場
- ・ガリガリ君をはじめとする同社の主力商品を生産

■工場の主要な活動

①5Sで安全・安心を徹底的に

- ・5Sは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5つの頭文字をとったもの。これらを徹底することでミスやトラブルを防ぐ
- ・管理職以外が活動の中心のボトムアップ活動で、メンバー間の絆づくりと業務全体の見える化や改善活動を進めるとともに、活動を通じてモラル、マナーの意識向上も図る
- ・5Sの取り組みに関しては部下が上司を評価
- ・定期的にメンバーを交代する全員参加の活動
- ・冊子「5S心得」を作成し、入社時に教育するとともに、朝礼でも読み合わせを行う
- ・1年に2回、稼働を停止し、一日かけて全従業員に5Sと安全の教育を行う

②見える/観せる/魅せる工場

- ・赤城乳業として初となる工場見学を実施し、アイスクリームづくりで感動してもらえる工場を目指す
- ・子供から大人まで楽しみながら見学できるよう、見学ルートに沢山の遊び心を盛り込む
- ・徹底した安全、安心に関する取り組みを紹介することで、見学した取引先からの信頼も高めている



③製薬会社に匹敵する衛生管理

- ・お客様に安心して食べていただくために、これまでの食品工場の常識をくつがえす、製薬会社レベルの衛生管理システムを構築
- ・制服は3種類用意し、屋外、構内、製造エリア毎に使い分け
- ・I Cチップによる入退室管理
- ・製造エリア入室時のエアシャワーによる埃除去
- ・金属探知機による全数検査と1年分のデータ保管

④E S と C S を同時に実現

- ・社員がゆとりをもってお客様のための製品づくりに専念できるように、働く人にやさしい工場を目指す
- ・若年層の社員でも主役になり活躍できる職場環境づくり
- ・「ありがとうカード」による褒める風土の醸成
- ・マッサージ機を設置したりラクゼーションルームや現場の女性のためのパウダールームの設置
- ・主婦に配慮した勤務時間の設定

⑤ごみゼロを目指す

- ・従来はごみとして捨てていたものを細かくし分別収集してリサイクル
- ・工場廃水をきれいにするなど環境に配慮

研修会後は会場を移動して会員交流会を開催しました。参加者各人の気づきや感想を語り合うとともに、会員相互の親睦を深めました。

Dr.テラのはじめての経営品質

第2回「社員稼業」という言葉

第1回は「顧客本位」について考えました。今回は「社員稼業」という言葉を考えます。実は、この言葉「経営品質アセスメント基準書」には出ていません。おっしゃっているのは、パナソニックの創業者、松下幸之助さんです。幸之助さんは「安易なサラリーマン根性をもつな、むしろ、自分を会社の中の独立経営体として考え、自営業を営んでいるつもりで創意工夫を尽くせ」と言っています。これを「社員稼業」という表現で伝えているのです。経営品質の基準書では、ちょっと難しい表現で、「どんな仕事も、作業でなく学習の場だ。社員は知的創造者でなければならない」と言っています。表現や内容は、微妙に違うかも知れませんが、Dr.テラは基本は同じだと考えています。つまり「仕事をやるからには、だれであっても、どんなことでも、しっかりそれを自分事としてとらえ、価値を相手に提供しろ」ということです。言われたことを、考えもなす。与えられた人生を、考えもなす。どちらも、虚しいことではないでしょうか。経営品質では「社員稼業」という言葉の代わりに、「社員重視」という表現をつかっています。「重視」とは「重く視る」「大事に丁寧に視る」ということで、これには、2つの側面があります。1つは、経営者が社員に対して、ロボットのようにこき使うのではなく、一人の人生を預か

っていると考えて、尊厳をもって接しようということ。任せられる仕事は、どんどん任せて本人の成長を期待しようということ。もう1つは、社員一人ひとりが、重要な人物となるように努力しようということ。ただし、ここでいう重要は、天才でなければならないということではなく、たとえば、目立たないけど、あの人がいるからチームがいつもにこやかでいられるという、縁の下の力持ちさんこそが重要なのです。あなたの会社では、社員を「重視」しているのでしょうか。社員一人ひとり「重要な人物」となっているのでしょうか。仕事を通じて成長できる会社になっているのでしょうか。

Dr.テラこと 寺沢俊哉氏の紹介

- ・ 公益財団法人日本生産性本部
主席経営コンサルサルト
- ・ 経営品質賞判定委員
(埼玉県・徳島県)
- ・ 経営コンサルタントとして、
約200社のコンサル ティング、延べ1万人を超える研修を実施
- ・ ホームページ「テラメディア」 <http://teras.jp/>
にて経営品質に関連する情報提供をしています。



SQA 通信

事務局からのお知らせ

①気軽に参加できるセミナーのご案内です～経営品質初学者、初級者向けです～

いずれも、会場は、さいたま商工会議所業務本部会議室（大宮ソニックシティ8階）、受講料無料です。

■経営品質実践ゼミ（仕事帰りに組織プロフィールを学んでみませんか？復習の方も歓迎です）

日時：平成26年1月14日（火） 午後6時から午後8時

■経営品質入門ベンチマーキング（「いい会社」の映像から、経営品質のエッセンスを学びます）

日時：平成26年2月18日（火） 午後1時30分から午後3時30分

②2014年度版アセスメント基準書は11月発行（予定）です

新アセスメント基準書が11月に発行される見込みです。経営品質8つのカテゴリーの見直しが入ってから初リリースとなる基準書です。来年度埼玉県経営品質賞に取り組みされる方は必見です。またこれまで経営品質に取り組みされた方も変更点を中心にチェックをされてはいかがでしょうか。

※「2014年度版アセスメント基準書」の購入をご希望の方は事務局まで（TEL048-641-0084）

編集後記 三郷トップセミナーでは、大河滋様の講演より「ホンダは社員には『自立・平等・信頼』を求める。」を、松井宏之様の事例発表より「変化に対応し生き残っていくために経営品質向上に取り組んでいる」を学びました。赤城乳業株式会社・本庄千本さくら『5S』工場でのベンチマークからは「ESとCSを同時に実現している」現場を学びました。

ニュースでは、若田光一宇宙飛行士（参考1）の国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在開始（平成25年11月7日木曜日・日本時間19時27分）が報道され、国立天文台（参考2）からは若田光一さんの観察対象であるアイソン彗星が11月29日に近日点通過するとの報道（<http://www.nao.ac.jp/astro/sky/2013/ison.html>）もありました。

埼玉県出身である宇宙飛行士の若田さんの健闘を期待しつつ夜空を眺めて秋の夜長を楽しみたいと思います！（参考1）宇宙航空研究開発機構（JAXA）に所属する宇宙飛行士で工学博士。

埼玉県さいたま市北区で1963年8月1日に誕生され、大宮市立宮原小学校入学、大宮市立別所小学校卒業、大宮市立宮原中学校卒業、埼玉県立浦和高等学校卒業、九州大学工学部卒業、1989年3月九州大学大学院を修了して日本航空に入社、1992年4月旧・NASDAによりミッションスペシャリスト候補に選出された。

（参考2）大学共同利用機関法人・自然科学研究機構・国立天文台（NAOJ: National Astronomical Observatory of Japan）